

要 旨

本稿は、本邦企業の銀行借入シェア構造（各行のローンシェア構造）の決定要因について、企業レベルのデータを用いて実証的に分析したものである。各企業に対する最大貸手のローンシェアを、企業、銀行、企業－銀行レベルの属性へ回帰したパネル推定の結果から、第一に、銀行からのホールドアップ懸念が高まるにつれて、ローンシェア構造が平準化されることが確認された。第二に、*distress* への距離が近くなるにつれて、ローンシェア構造の偏りが上昇することも確認された。このことは、銀行間の協調の失敗を回避することを意図したものと解釈できる。第三に、企業と銀行間における取引コストやモニタリングコストの存在、企業の流動性保険動機、銀行のポートフォリオ分散動機といった理論的予想に整合的な借入シェア構造の変動パターンが確認された。これらの結果は、企業と銀行との取引関係の特徴づける際に、ローンシェア構造が重要な情報を提供することを示唆している。

キーワード：ホールドアップ；協調の失敗；取引コスト；流動性保険

JEL Classification: G21, G32, G33